

SANIX

2008年3月期 第1四半期 連結決算説明会

株式会社 **サニックス**

2007年8月9日

(注) 四半期の財務数値は、監査法人による会計監査を受けておりません。
なお、数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。

目 次

2008年3月期 第1四半期の概況	P. 1
2008年3月期 連結業績見通し	P. 7
HS事業部門の動向	P. 9
HS事業部門 基礎補修工事の販売状況	P. 12

SANIX

株式会社 **サニックス**

2008年3月期
第1四半期の概況

2008年3月期：第1四半期の概況

第1四半期 (2007年4月～6月)

売上高 6,845百万円 (前年同期比23.7%減、計画比3.4%減)
経常利益 300百万円 (前年同期比438百万円増、計画比274百万円増)

売上高は、HS事業部門が順調に推移し計画比プラスとなったものの、環境資源開発事業部門において、防災対策に万全を期すため発電所の操業再開を遅らせた影響により、全体では計画比3.4%の未達。

利益面では、人件費を中心とした固定費削減が計画以上に進み、経常利益は300百万円と増益。
(前年同期は137百万円の経常損失)

当グループ主力事業のHS事業部門が徐々に回復

HS事業部門は、前第2四半期以降続いた業績低迷は底を打ち、当第1四半期は緩やかながら回復基調で推移。売上高は計画比4.6%のプラスとなった。利益面では、営業生産性の向上と固定費削減が計画以上に推移し、営業利益は計画比35.0%増の1,201百万円となった。

サニックスエネルギー苫小牧発電所が操業再開

前第4四半期に発生した苫小牧発電所における火災事故により、業績に一時的に悪影響を及ぼすこととなった。操業再開時期を当初予定より約1か月先延ばしし、再発防止に向けた防災システム・安全対策の再構築に相当の時間を費やした。平成19年6月12日より、万全を期して操業を再開。

2008年3月期：第1四半期損益計画と実績の差異

(単位:百万円)

連 結	2007年3月期		2008年3月期				
	第1四半期		第1四半期				
	実績値	売上比	実績値	売上比	前期比増減	計画値	計画差異
売上高	8,966	100.0%	6,845	100.0%	-23.7%	7,085	-239
(HS部門)	5,251	58.5%	4,277	62.5%	-18.5%	4,090	187
(ES部門)	1,226	13.7%	860	12.6%	-29.8%	950	-89
(環境資源)	2,489	27.8%	1,707	24.9%	-31.4%	2,045	-337
売上原価	4,515	50.4%	3,628	53.0%	-19.6%	3,835	-206
売上総利益	4,451	49.6%	3,217	47.0%	-27.7%	3,250	-32
販管費	4,566	50.9%	2,887	42.2%	-36.8%	3,200	-312
営業利益	-114	-1.3%	330	4.8%		50	280
経常利益	-137	-1.5%	300	4.4%		26	274
当期純利益	11	0.1%	152	2.2%		-78	230

売上高は、各事業部門共に減収の6,845百万円(前期比23.7%減)。利益面は、「経営合理化計画」によるコスト削減が進み、売上高対販管費比率が前期比8.7ポイント低下したこと等により、経常利益では、前期比438百万円改善され、300百万円の経常利益となった。計画に対しては、売上高は苫小牧発電所火災の影響等により239百万円の未達となったが、利益面ではコスト削減が寄与し、経常利益は274百万円の計画比プラスとなった。



2

2008年3月期：商品別売上計画と実績の差異

(単位:百万円)

連 結	2007年3月期		2008年3月期			
	第1四半期		第1四半期			
	実績値	実績値	前期比増減額	計画値	計画差異	
HS部門	白蟻防除施工	2,557	1,476	-1,081	1,520	-43
	床下・天井裏換気システム	1,512	629	-882	700	-70
	家屋補強システム	350	103	-247	140	-36
	基礎補修工事		1,682	1,682	1,330	352
	その他	830	386	-444	400	-13
ES部門	防錆機器取付施工	371	232	-138	270	-37
	建物給排水補修施工	348	243	-105	270	-26
	建物防水塗装補修施工	205	122	-82	135	-12
	その他	301	262	-38	275	-12
環境部門	廃プラ加工処理	1,216	993	-222	1,165	-171
	有機廃液処理	569	454	-115	500	-45
	売電収入	401	7	-394	90	-82
	焼却処理	301	252	-49	290	-37

HS事業部門における基礎補修工事は、2007年2月中旬より販売開始。

ES事業部門における「活水器取付施工」は、今期より防錆機器取付施工」に名称を変更。



3

2008年3月期：第1四半期セグメント別業績の比較

(単位：百万円)

連 結	2007年3月期		2008年3月期						
	第1四半期		第1四半期						
	実績値	売上比	実績値	売上比	前期比 増減額	計画値	売上比	計画 差異	
H S 部門	売上高	5,251	100.0%	4,277	100.0%	-973	4,090	100.0%	187
	売上総利益	3,722	70.9%	2,859	66.8%	-863	2,770	67.7%	89
	販管費	2,827	53.9%	1,657	38.7%	-1,170	1,880	46.0%	-222
	営業利益	894	17.0%	1,201	28.1%	307	890	21.8%	311
E S 部門	売上高	1,226	100.0%	860	100.0%	-365	950	100.0%	-89
	売上総利益	545	44.5%	334	38.9%	-210	390	41.1%	-55
	販管費	588	48.0%	378	44.0%	-209	422	44.4%	-43
	営業利益	-42	-3.5%	-43	-5.1%	0	-32	-3.4%	-11
環境 部門	売上高	2,489	100.0%	1,707	100.0%	-782	2,045	100.0%	-337
	売上総利益	183	7.4%	23	1.4%	-160	90	4.4%	-66
	販管費	406	16.3%	294	17.2%	-112	328	16.0%	-33
	営業利益	-223	-9.0%	-270	-15.9%	-47	-238	-11.6%	-32
配賦 不能	営業利益	-743	-	-557	-	186	-570	-	12



2008年3月期：第1四半期セグメント別概況及び見通し

HS事業部門

売上高は、新商品「サニックス基礎補修工事」が順調に業績を伸ばし、計画比352百万円のプラスとなったことにより、全体では計画比187百万円の増収となった。基礎補修工事は、今後も堅調に推移すると見込む。基礎補修工事は、導入して間もないこともあり施工時の材料ロスが発生したこと等により、材料費比率が計画に比して1.5ポイント増となり、売上原価を押し上げる要因となった。今後は、販売件数の増加に伴って、施工効率及び技術力が向上してきたため、材料費比率は低下を見込む。

ES事業部門

新規顧客が販売対象となる「防錆機器取付施工」の減収に伴い、売上高は計画比89百万円の減収。売上高の計画比減収により、営業利益においても計画比11百万円未達であった。今後は、大型施設が集中する関東圏での新規開拓に注力し、売上高の早期回復を図る。

環境資源開発事業部門

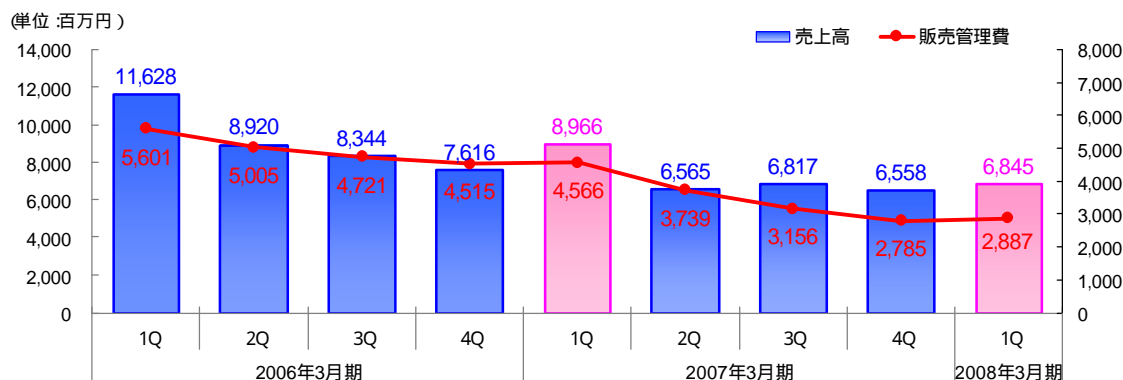
売電収入は、火災後の防災面を徹底するために、苫小牧発電所の操業再開時期を約1カ月先延ばしたことにより、計画比82百万円の減収。これに伴い、廃プラ搬入を抑制したため「廃プラ加工処理収入」は、計画比171百万円の減収となった。「有機廃液処理事業」では、処理負荷のかかる関東圏からの廃液の搬入制限を実施したことにより、計画比45百万円の減収となった。

7月には北九州焼却工場において定期修理、苫小牧発電所においてタービンの法定点検を実施。



コスト削減による収益性の改善状況

四半期毎の売上高、販売管理費の推移



<参考 売上高対販管費比率及び営業利益の推移>

(単位:百万円)

	2006年3月期				2007年3月期				2008年3月期
四半期別	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
販管費比率	48.2%	56.1%	56.6%	59.3%	50.9%	56.9%	46.3%	42.5%	42.2%
営業利益	404	-1,228	-1,226	-1,331	-114	-1,358	-132	37	330

当第1四半期の売上高対販管費比率は、前期第4四半期と同水準で推移し、前年同期比でマイナス8.7ポイント、計画比ではマイナス3.0ポイントの42.2%となった。



SANIX

株式会社 **サニックス**

2008年3月期
連結業績見通し

2008年3月期：連結業績見通し

業績の見通しについて、変更はございません。

(単位：百万円)

連 結	2008年3月期					
	上半期		下半期		通期	
	計画値	前期比 増減	計画値	前期比 増減	計画値	前期比 増減
売 上 高	14,230	-8.4%	14,450	8.0%	28,680	-0.8%
(HS部門)	7,770	-8.3%	6,830	1.5%	14,600	-4.0%
(ES部門)	1,990	-10.0%	2,010	7.0%	4,000	-2.2%
(環境資源部門)	4,470	-7.7%	5,610	17.7%	10,080	4.9%
売 上 原 価	7,904	-9.2%	7,646	1.6%	15,550	-4.2%
売 上 総 利 益	6,326	-7.4%	6,804	16.4%	13,130	3.6%
販 管 費	6,166	-25.8%	5,964	0.4%	12,130	-14.9%
営 業 利 益	160	-	840	-	1,000	-
経 常 利 益	100	-	800	-	900	-
当 期 純 利 益	-60	-	720	-	660	-

SANIX 7

2008年3月期：セグメント別業績見通し

業績の見通しについて、変更はございません。

(単位：百万円)

連 結		2008年3月期					
		上半期		下半期		通期	
		計画値	前期比 増減額	計画値	前期比 増減額	計画値	前期比 増減額
H S 部 門	売 上 高	7,770	-705	6,830	99	14,600	-605
	売 上 総 利 益	5,280	-525	4,590	-14	9,870	-539
	販 管 費	3,650	-1,341	3,405	-19	7,055	-1,361
	営 業 利 益	1,630	816	1,185	5	2,815	821
E S 部 門	売 上 高	1,990	-222	2,010	131	4,000	-90
	売 上 総 利 益	800	-145	780	20	1,580	-124
	販 管 費	792	-327	740	-55	1,532	-382
	営 業 利 益	8	182	40	76	48	258
環 境 部 門	売 上 高	4,470	-375	5,610	842	10,080	467
	売 上 総 利 益	246	164	1,434	950	1,680	1,114
	販 管 費	654	-141	676	-8	1,330	-150
	営 業 利 益	-408	306	758	958	350	1,265
配 賦 不 能	営 業 利 益	-1,070	329	-1,143	-106	-2,213	222

SANIX 8

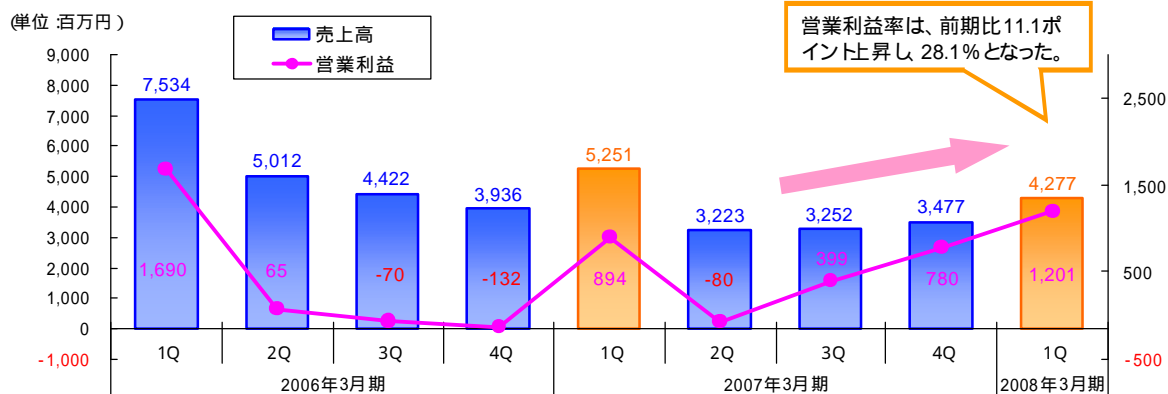
SANIX

株式会社 **サニックス**

HS事業部門の動向

HS事業部門：売上高、営業利益の推移

HS事業部門における売上高、営業利益の推移

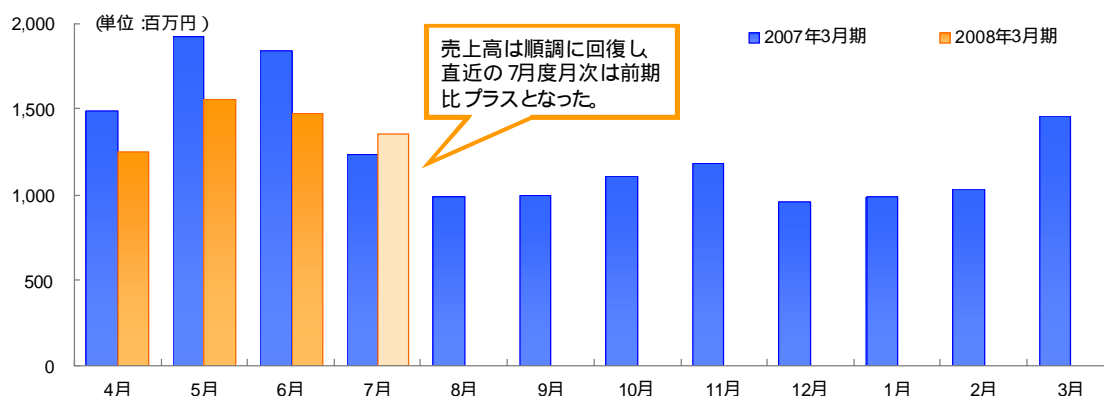


< 参考 : 営業利益及び売上高対営業利益率の推移 >

四半期別	2006年3月期				2007年3月期				2008年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
営業利益	1,690	65	-70	-132	894	-80	399	780	1,201
営業利益率	22.4%	1.3%	-1.6%	-3.4%	17.0%	-2.5%	12.3%	22.4%	28.1%

HS事業部門：月次売上高の推移

HS事業部門における月次売上高の推移



<参考>月次売上高の推移

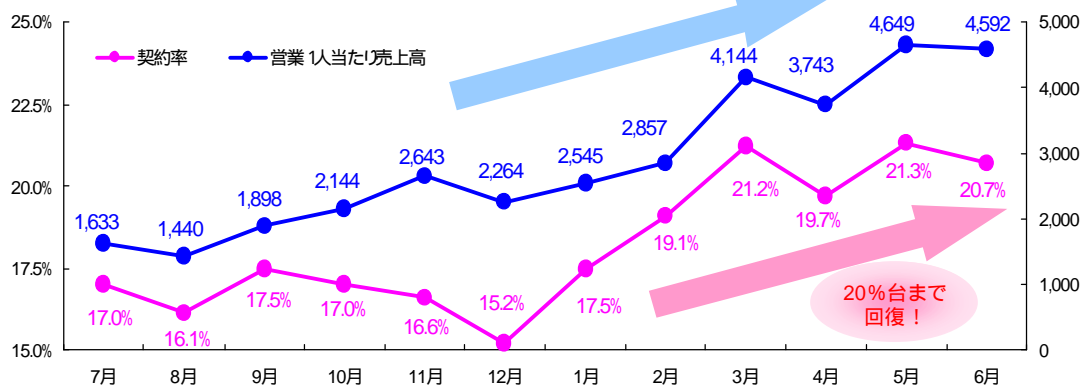
月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
07 売上高	1,489	1,918	1,843	1,239	986	998	1,108	1,186	957	987	1,031	1,458
前期比	64.4%	71.9%	72.1%	72.2%	64.2%	56.7%	63.2%	80.5%	80.1%	96.6%	73.7%	96.3%
08 売上高	1,246	1,557	1,474	1,363								
前期比	83.7%	81.2%	80.0%	110.0%								

2008年3月期7月度月次につきましては、速報値を掲載しております。



HS事業部門：営業生産性の動向

営業1人当たり売上高、契約率の推移 (直近1年間)



2007年3月期 9月以降の人員数は実際の稼働人員数で計算しています。

<参考>HS事業部門における営業従事者数の推移 (直近1年間)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
営業従事者数	759	685	526	517	449	423	388	361	352	333	335	321

営業従事者数は330名程度で定着。営業一人当たり売上高は前期に引き続き増加傾向にあり、当第1四半期では、平均約4,300千円(前期比約2,000千円増)となった。また、契約率は20%台まで回復。

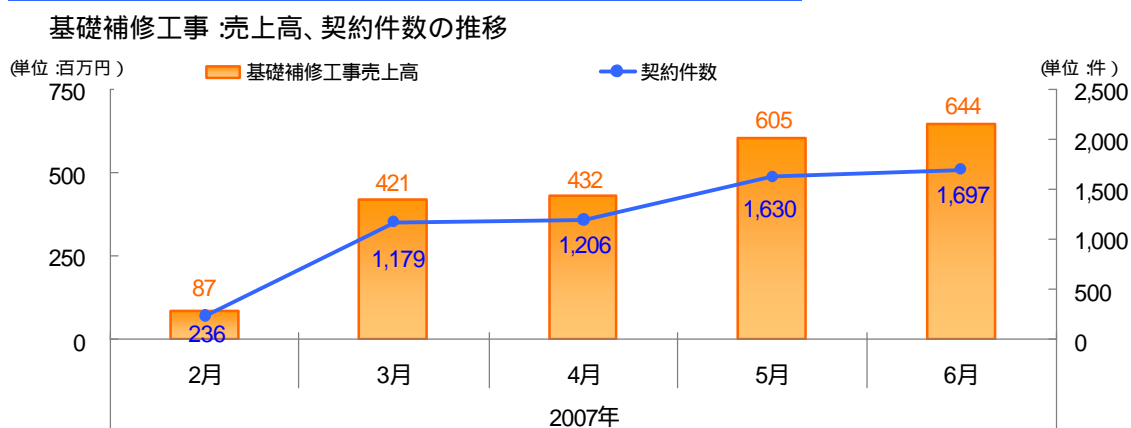


SANIX

株式会社 **サニックス**

HS事業部門 基礎補修工事の販売状況

基礎補修工事：売上高、契約件数の推移



< 参考：HS事業部門における月別一件単価の推移 >

	2月	3月	4月	5月	6月
一件単価 (千円)	176.3	205.9	211.9	239.2	254.2

2007年2月中旬より販売を開始した新商品「サニックス基礎補修工事」の販売件数は、堅調に推移し、当第1四半期ではHS事業部門における総売上高の39.3%を占めるほどまで成長し、当事業部門における主力商品の一つとなった。また、それに伴い一件単価も向上し、6月では約254千円まで回復した。

基礎補修工事

従来商品との違い

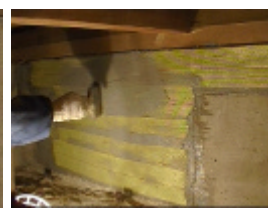
基礎のひび割れ」という基礎劣化の事実を目で確認できるため、わかりやすく訴求力が高い。
また、従来行ってきた、被害を未然に防ぐ予防医学の観点からの提案において、ご理解いただけなかった方に対しても、積極的に提案を行うことができる商品である。



過去の経験、従来の技術を応用

過去30年間にわたって蓄積してきた床下調査のノウハウで基礎の状態も確認でき、従来通りの調査で提案可能な商品である。

また、複雑な施工技術が必要としないため、施工技術も短期間で習得することができた。



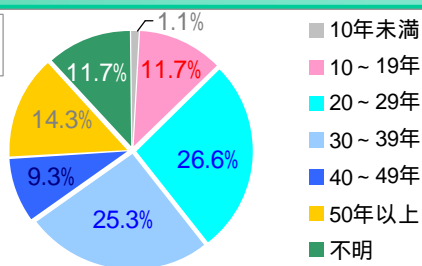
基礎補修工事

営業効率

昭和56年以前の建築物の64%、昭和57年以降の23%が『危険な建物』と定義され、この中には、『基礎のひび割れが著しいもの』も含まれる」とされている。

当社顧客は、築20年以上の顧客が75.5%を占めていることから顧客に対し、効率的に商品の提案が可能な状況にある。

築年数別顧客比率



日本建築学会近畿支部が行った神戸市中央区特定地域調査データによる。

基礎補強工事 (基礎の増し打ち工事)」を追加導入

損傷が著しく、基礎補修工事では対応不可能な物件に対しては、『基礎補強工事』にて対応。当社の『サニックス福岡一級建築士事務所』にて、再度現地調査を行った上で、基礎を増し打ちし、補強する。

